



IBM i プロセッサおよびユーザー使用権の移転について

このドキュメントについて

このドキュメントは、ビジネス・パートナーと IBM の、営業ならびにテクニカル・サポート向けのガイドとして用意されたもので、お客様がお持ちの IBM i プロセッサおよびユーザー使用権の移転処理を円滑に行うことを目的としています。なお、当ドキュメント内に記述されている、移転元マシン上のキーを導入・確認する方法については、ライセンス・キーを自力で導入されるお客様にご案内ください。

当ドキュメントの原典の最新バージョンは以下の Web サイトから入手いただけます。当ドキュメントは以下の翻訳版ですが、日本においては一部適用されない条項が含まれていますので、原典にあたる際にはご注意ください。

IBM i License Topics (“IBM i Processor and User Transfer” セクションを参照してください)
<https://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=nas8N1022087>

目次

1 概要.....	1
1.1 IBM I プロセッサおよびユーザー使用権の移転とは？	1
1.2 プログラム / 製品番号	1
2 契約条件	1
2.1 要件.....	1
2.2 移行期間.....	2
2.3 ソフトウェア・メンテナンス	2
2.4 移転グループ.....	2
2.5 移転できない基本使用権.....	3
2.6 価格.....	3
2.7 移転元マシン	3
2.8 移転先マシン	4
3 IBM I 使用権移転のプロセス	5
3.1 使用権移転プロセスの概要	5
3.2 使用権移転のオーダーに使用される構成の内容	5
3.3 ENTITLED SYSTEMS SUPPORT (ESS) WEB サイト	6
3.4 移転元マシンからすべての IBM I 使用権を移転する場合	6
4 移転元マシンへのキーの入力と確認	6
4.1 IBM I 7.1 以降の移転元マシンへのキーの入力と確認.....	6
4.2 IBM I 6.1 の移転元マシンへのキーの入力と確認.....	8
4.3 IBM I 5.4 の移転元マシンへのキーの入力と確認.....	9
4.4 WRKLCINF と QLZAVXFR のサンプル出力.....	11
5 追加情報	13

1 概要

1.1 IBM i プロセッサおよびユーザー使用権の移転とは？

IBM i の契約条件では、IBM i オペレーティング・システムのライセンス使用権は、最初に購入されたマシンに残るものとします。対象となる条件下では、IBM は IBM i プロセッサおよびユーザー使用権のあるマシンから別のマシンに移転することを可能にします。この仕組みにより、お客様の IBM i ソフトウェアへの投資を保護しながら、マシンの置き換え、マシンの統合、ロード・バランシングの再構築を行うことができます。IBM i のライセンス移転は、IBM Configurator for e-business (一般には短縮名 e-config として知られています) を使用して構成します。

1.2 プログラム / 製品番号

5722-SS1 IBM i 5.4
5761-SS1 IBM i 6.1
5770-SS1 IBM i 7.1 およびそれ以降のリリース

IBM i プロセッサおよびユーザー使用権の移転に関するプロセスおよびガイドは、上記製品にのみ適用されます。他のソフトウェア製品 (例えば BRMS, Power VM) やハードウェア・アクティベーションには適用されません。他の製品に関する移転のルールは、お客様が IBM ソフトウェアないしハードウェア製品をご購入された際の提供条件において規定されます。

2 契約条件

2.1 要件

IBM i プロセッサおよびユーザー使用権を移転するには、以下の要件が満たされている必要があります。

- IBM i の使用権は、エンド・ユーザー企業 1) が所有している必要があります。
- 移転元マシンと移転先マシンは、エンド・ユーザー企業の所有またはリースを受けている必要があります。
- 移転元マシンは、最低 1 年間、移転先マシンと同じエンドユーザー企業で稼働されている必要があります。
- 移転元マシンには、ソフトウェアメンテナンス(SWMA)が必要です。移転される各ソフトウェアは、SWMA が適用されている必要があります。
- 使用権を移転するには、電子ライセンス証書(ePoE)が IBM ライセンス管理システム(LMS)に存在している必要があります。
- 移転元マシンのライセンスは、IBM i 5.4, IBM i 6.1, または IBM i 7.1 以降でなければなりません。i5 / OS V5R3 以前のライセンスが付与されているマシンでは、転送はサポートされません 2)。
- 移転先マシンは、移転された使用権に対応するために使用可能なアクティブ化されたプロセッサを持つ必要があります。移転されたソフトウェア使用許諾の「バンキング」は許可されません。
- 移転元マシンがリースされている場合は、リース終了前に IBM i のライセンスを移転する必要があります。

この IBM i 使用権の移転オファリングは、「Move Up to Power」プログラムと併せてご利用いただくことはできません。

注:

- 1) 企業とは、任意の法人格を有する者 (個人、パートナーシップ、あるいは株式会社を含みますが、これらに限りません) と、その子会社です。子会社とは、企業グループが、議決権付株式または持分の過半数を直接または間接に保有または支配する法人格を有する者、あるいは議決権付株式がない場合、意思決定権を直接または間接に保有もしくは支配

する法人格を有する者です。

- 2) 2014年1月14日に、移転元マシンが移転先マシンと同じ、またはより前のバージョン/リリースの IBM i のライセンスを所有する場合、e-config は IBM i のライセンス移転を可能にするように更新されました。以前は、移転元と移転先のマシンは、同じ IBM i バージョン/リリースで、IBM i のライセンス移転に適格であることが認められている必要がありました。

移転元マシンは、移転先マシンよりも新しいバージョン/リリースの IBM i にはなれないことに注意してください。

2.2 移行期間

お客様が IBM i ソフトウェアの使用権（またはその他のライセンス・プログラム）をあるマシンから別のマシンに移転する場合、両方のマシンでのソフトウェア・ライセンスの同時使用は 30 日間に限られます。IBM i のライセンスを新規に購入したマシン（新しいシリアル番号が割り振られたマシン）に移転する場合、30 日の期間は、新しいマシン上のいずれかの区画で IBM i の IPL が初めて実行される時に始まります。IBM i のライセンスを既存のマシン（すでに所有しているインストール済みのマシン）に移転する場合、IBM i ワークロードを移転元マシンから移転先マシンにマイグレーションし始めるとすぐに 30 日間の期間が始まります。実際のワークロードの移動前の移転先マシンでのテストは、30 日間の移行アクティビティとしてカウントされます。移行を完了するためにさらに時間が必要な場合は、テンポラリー・ソフトウェア・ライセンスが必要です。

2.3 ソフトウェア・メンテナンス

移転先マシンへ移転された IBM i プロセッサ使用権には、新規の 1 年間ソフトウェアメンテナンス (SWMA) が無償で提供されます。追加料金で、SWMA の期間を延長(3 年間)することもできます。IBM i ユーザー使用権を移転する場合には、SWMA は含まれません。

SWMA の移転に関する契約条件には変更はありません（「IBM ソフトウェア・メンテナンスのご提供条件」(書式番号: JNTC-6011) を参照してください）。移転元マシンの SWMA の残存期間が 1 年未満の場合、残りの期間はライセンス移転によって新規に得られる 1 年間の SWMA と重複するため、既存の SWMA を移転先マシンへ移転しても利点はありません。既存のマシンに 1 年を超える期間の SWMA が残っている場合、SWMA を移転するメリットがあります。既存マシンの SWMA についての返金やクレジットはありません。SWMA は、以下の条件を満たす場合に移転することが可能です。

移転元マシンと移転先マシンの両方が同一企業内で使用され、同一国内に設置されていること。さらに、

- (a) IBM i 使用権が移転可能であり、そのライセンス条項に従って実際に移転が行われること。かつ
- (b) IBM i SWMA の移転を受ける企業などの法人が、SWMA に関わる「IBM ソフトウェア・メンテナンスのご提供条件」記載の条項に同意すること。そして移転に際して、IBM i SWMA の「IBM ソフトウェア・メンテナンスのご提供条件」の印刷されたハードコピーも同時に移転すること。かつ
- (c) 移転元マシンと移転先マシンは同一のオペレーティング・システムがライセンスされ、移転先マシンは移転元マシンと同一またはより新しいリリース・レベルにあること。そして、移転先マシンの方がより大きな性能を持つ場合には、SWMA サポート料金が上がることによって発生する差額料金の支払いに同意いただくこと。

2.4 移転グループ

IBM i をサポートする移転元、移転先マシンおよびノードは、機械グループを基にした移転グループに割り当てられます。

使用権の移転が可能なグループ

- グループ 1 (P20), 2 (P30), 3 (P50) の間
- グループ 1, 2, 3 からグループ 6 (PureFlex/Flex)へ、グループ 6 のタイプ/モデル 7895-23A を除く

グループ 1, 2, 3 の移転元マシンから PureFlex または Flex node へ IBM i プロセッサ使用権が移転される際には、移転元の PureFlex または Flex node へ IBM i 無制限ユーザー使用権が自動的に追加されます。1 台のマシンまたはコンピュータ・ノード上に存在できる IBM i 無制限ユーザー使用権は 1 つだけです。

移転先マシンに IBM i 使用権が存在していない場合、e-config は IBM i プロセッサまたはユーザー使用権の移転に基づいて基本プロダクト使用権のための無償フィーチャーを追加します。

2.5 移転できない基本使用権

以下の POWER5 モデルには基本使用権が存在し、これらを移転することはできません。

- 9406-550 (1 基本ライセンス)
- 9406-570 (1 基本ライセンス)
- 9406-595 (4 基本ライセンス)

2.6 価格

お客様は、それぞれの移転毎に IBM へ移転料金をお支払いいただく必要があります。

- グループ 1, 2, および 3 の間での移転の場合、プロセッサ使用権の移転ごとにお支払いいただく必要があります。
- グループ 1, 2, および 3 からグループ 6 への移転の場合、プロセッサ使用権の移転ごとにお支払いいただく必要があります。また、追加料金なしで、1 つの無制限ユーザー使用権が移転先マシンに対して自動的に作成されます。IBM Flex System p260 コンピュート・ノード 7895-23A (グループ 6) は、グループ 1, 2, および 3 からの使用権の移転はできません。

2.7 移転元マシン

移転元マシンは、以下のモデルのいずれかになります。

グループ 1

- System i 550 (9406-550)
- Power 550 (9409-M50、8204-E8A)
- Power 560 (8234-EMA)
- Power 750 (8233-E8B、8408-E8D)
- Power 740 (8205-E6B、8205-E6C、8205-E6D)
- Power 730 (8231-E2B、8231-E2C、8231-E2D)
- Power S824 (8286-42A)
- Power S924 (9009-42A)
- Power H924 (9223-42H)

グループ 2

- System i 570 (9406-570、9406-MMA)
- Power 570 (9117-MMA)
- Power 770 (9117-MMB、9117-MMC、9117-MMD)
- Power 760 (9109-RMD)
- Power E870 (9119-MME)
- Power E880 (9119-MHE)

- Power E870C (9080-MME)
- Power E880C (9080-MHE)
- Power E980 (9080-M9S)

グループ 3

- System i 595 (9406-595)
- Power 595 (9119-FHA)
- Power 780 (9179-MHB、9179-MHC、9179-MHD)
- Power 795 (9119-FHB)

グループ 6

- IBM Flex System p260 コンピュータ・ノード (7895-23A)
- IBM Flex System p260 コンピュータ・ノード (7895-22X)
- IBM Flex System p260 コンピュータ・ノード (7895-23X)
- IBM Flex System p270 コンピュータ・ノード (7954-24X)
- IBM Flex System p460 コンピュータ・ノード (7895-42X)
- IBM Flex System p460 コンピュータ・ノード (7895-43X)

2.8 移転先マシン

移転先マシンは、以下のモデルのいずれかになります。

グループ 1

- System i 550 (9406-550)
- Power 550 (9409-M50、8204-E8A)
- Power 560 (8234-EMA)
- Power 750 (8233-E8B、8408-E8D)
- Power 740 (8205-E6B、8205-E6C、8205-E6D)
- Power 730 (8231-E2B、8231-E2C、8231-E2D)
- Power S824 (8286-42A)
- Power S924 (9009-42A)
- Power H924 (9223-42H)

グループ 2

- System i 570 (9406-570、9406-MMA)
- Power 570 (9117-MMA)
- Power 770 (9117-MMB、9117-MMC、9117-MMD)
- Power 760 (9109-RMD)
- Power E870 (9119-MME)
- Power E880 (9119-MHE)
- Power E870C (9080-MME)
- Power E880C (9080-MHE)
- Power E980 (9080-M9S)

グループ 3

- System i 595 (9406-595)
- Power 595 (9119-FHA)
- Power 780 (9179-MHB、9179-MHC、9179-MHD)
- Power 795 (9119-FHB)

グループ 6

- IBM Flex System p260 コンピュータ・ノード (7895-23A)
- IBM Flex System p260 コンピュータ・ノード (7895-22X)
- IBM Flex System p260 コンピュータ・ノード (7895-23X)
- IBM Flex System p270 コンピュータ・ノード (7954-24X)

- IBM Flex System p460 コンピュート・ノード (7895-42X)
- IBM Flex System p460 コンピュート・ノード (7895-43X)

3 IBM i 使用権移転のプロセス

3.1 使用権移転プロセスの概要

1. 移転のために必要な要件を理解し、すべての要件を満たしていることを確認します。
2. e-config を使用して、移転元マシンから必要な使用権を削除し、それらの使用権を移転先マシンに追加するためのソフトウェア・オーダー構成を作成します。このオーダーにより、移転元と移転先マシンの新しいライセンスキーが発行されますが、移転先マシンのキーは、以下の手順 3 と 4 が完了するまで発行されません。
3. 移転元マシンにライセンス削減のためのソフトウェアライセンスキーを入力します。第 4 節を参照してください。
4. 「キーセンター」とも呼ばれる IBM ワールドワイド・サポート・センターに、移転元マシンへのライセンスキー入力を確認するエビデンス情報を送付します。その後、キーセンターは使用権を移転した数量のライセンスキーを移転先マシンで使用できるようにします。
5. 移転先マシンに、新しいライセンスキーを入力します。

3.2 使用権移転のオーダーに使用される構成の内容

IBM i 使用権を移転するためにオーダーを構成および発注する際、移転元マシンと移転先マシンに対して適切な使用権の登録とライセンス・キーの作成および更新が行われるように、いくつかの重要な手順を正確に実行する必要があります。これらのオーダーに関する重要な要素を正しく取得することができない場合、問題を解決するために複数の組織による手作業での修正措置に多くの時間が必要となり、お客様の導入スケジュールや満足度に影響を与える可能性があります。

e-config は、IBM i ソフトウェアの使用権（プロセッサ、ユーザー、および/またはアプリケーション・サーバー・プロセッサ）を移転元マシンから移転先マシンに移転するためのオーダーを作成するために使用されます。IBM i の使用権移転の処理は、少なくとも 3 つのオーダーで構成されています。すべてのライセンス移転のオーダーは、**移転先マシンのシステム・タイプ/番号に対して行わなければならない**。移転元マシンのシステム・タイプ/番号に対してオーダーすることはありません。

- **5733-NKY** は、移転元マシンから移転先マシンに転送されるプロセッサ、ユーザー、および/またはアプリケーション・サーバー・プロセッサの数を示します。また、移転元マシンのマシンタイプ、ロケーションコード、およびシリアル番号を特定します。このオーダーでは、既存のプロセッサ、ユーザー、および/またはアプリケーション・サーバー・プロセッサの使用権を移転元マシンのシリアル番号から移転先マシンのシリアル番号に移動して、LMS の使用権レコードを更新します。そして、移転元マシン用のライセンス数が削減されたキーと、移転先マシン用のライセンス数が追加されたキーを作成します。移転先マシンのライセンスキーは、移転元マシンにライセンス数削減のキーが入力されたことを示す証明をキーセンターが受領するまで、ESS で発行されません。
- **5722/5761/5770-SS1** は、移転先マシンに転送されるプロセッサ、ユーザー、および/またはアプリケーション・サーバー・プロセッサの数を示し、ライセンス移転料金を請求し、ライセンス移転ドキュメントを出荷します。使用権が既存のマシンに移転される場合、このオーダーには移転先マシンのマシンタイプ、ロケーションコード、およびシリアル番号が指定されています。使用権が新規にオーダーされたマシンに移転される場合、LMS はオーダーのタイプ/システム番号をリンクすることによって新しいマシンのマシンタイプ、ロケーションコード、およびシリアル番号が特定されます。

- **5733-SPP** は、移転されたプロセッサまたはアプリケーション・サーバー・プロセッサの使用権に対して、ソフトウェア・メンテナンス登録をオーダーします。メンテナンス期間を3年間に延長すると、5733-SPPではなく5733-SPEおよび5733-SP3になります。

IBM i ライセンス移転オーダーの作成に関するガイダンスについては、Web サイト [IBM i License Topics](http://www.ibm.com/servers/eserver/ess) の”IBM i Processor and User Transfer”セクションにある IBM i License Transfer Configuration and FAQ の資料を参照してください。

3.3 Entitled Systems Support (ESS) Web サイト

Entitled Systems Support Web サイト(<http://www.ibm.com/servers/eserver/ess>)は、IBM License Management System へのインターフェースを提供しており、お客様、ビジネスパートナー、および IBM 社員が、ライセンス使用権のデータやソフトウェア・ライセンスキーを表示したり、ソフトウェア関連のさまざまな機能にアクセスしたりすることができます。IBM i の使用権移転のオーダーが処理されると、移転元マシン用のライセンス数が削減されたライセンス・キーが ESS Web サイトで入手可能になります。

ライセンス数が削減されたライセンス・キーを移転元マシンのすべての IBM i 区画に入力し、ライセンス・キーが入力されたことを示す画面コピーをキー・センターに提出する必要があります。その後、移転先マシンのライセンス数追加のライセンス・キーは、ESS Web サイトで公開されます。

3.4 移転元マシンからすべての IBM i 使用権を移転する場合

移転元マシンからすべてのプロセッサ使用権が削除された場合は、1 プロセッサ用の 60 日間の一時的な IBM i ライセンス・キーが提供され、移転元マシンにライセンス数削減のライセンス・キーを入力できるようになります。

移転元マシンが IBM i アプリケーション・サーバー・プロセッサ使用権を使用していて、すべての IBM i プロセッサ使用権が移転元マシンから削除される場合は、移転元マシンのすべての IBM i 区画で以下の API 呼び出しを実行する必要があります。

```
CALL QSYS/QLZASPAS PARM(*RMV5053')
```

移転元マシンにライセンス数削減のライセンス・キーを入力し、必要な証明をキーセンターに送信する方法については、次のセクションを参照してください。

4 移転元マシンへのキーの入力と確認

4.1 IBM i 7.1 以降の移転元マシンへのキーの入力と確認

1. 移転元マシンに、ライセンス数削減のライセンス・キーを入力します。

ESS Web サイト(<http://www.ibm.com/servers/eserver/ess>)にアクセスし、IBM ID を使用してサインオンし、左側のメニューから IBM i software keys にアクセスします。移転元マシンのマシンタイプ/シリアル番号を入力して、表示されたプロダクトのリストから 5770-SS1 5051 (IBM i - Per Processor) を見つけます。プロダクトを選択して、画面表示の下部から[View keysheet]を選択すると、ライセンスキーが表示されます。ライセンスキーの内容は、テキストとしてダウンロードや、メールに送信することも可能です。

"ADDLICKEY"コマンドを使用して 5770-SS1 5051 の新しいライセンス・キーを入力します。ADDLICKEY コマンドでのキー入力がかまくらない場合は、以下の手順に従ってください。HMC 管理対象システムでは、HMC 上で手順を実行します。システムが HMC 管理ではない場合は、Virtual

Partition Manager (VPM) または Integrated Virtualization Manager (IVM) を使用して手順を実行してください。

マシン上の各 IBM i 区画について HMC に表示される「希望する処理装置数」の欄 (VPM では”Number of partitioned processors”) を、共用プロセッサを利用している区画については「希望する仮想プロセッサ数」の欄 (VPM では”Shared processor pool units”) を修正し、すべての IBM i 区画でのプロセッサ数の合計が、今回移転元マシンに導入する使用権 (削減されたライセンス数の新しい IBM i 使用権) のプロセッサ数と一致するようにします。

- 注：マシンは、ソフトウェアのライセンス数より少ないキーを受け入れません。

プロセッサの構成が完了したら、IBM i コマンド行から次のコマンドを実行します。

ADDLICKEY

```
PRDID(5770SS1)
LICTRM(V7)
FEATURE(5051) <注>
SERIAL(*LOCAL)
PRCGRP(*ANY)
LICKEY(nnnnnn nnnnnn nnnnnn)
USGLMT(mn)
EXPDATE(*NONE)
VNDDTA(*NONE)
```

注：プロセッサ：5051、アプリケーション・サーバー・プロセッサ：5053、ユーザー：5052

2. 移転元マシンにライセンス・キーが入力されたこと確認します。

ライセンス・キーが正しく入力されたことを確認するためには、WRKLICINF を使用します。WRKLICINF は、現在の区画に入力したキーに関連する値を表示します。この情報は、**各** IBM i 区画から収集する必要があります。

次の WRKLICINF コマンドは、新しいライセンス数削減のキーを入力した後に、移転元マシンの各 IBM i 区画で実行する必要があります。「ライセンス情報の処理」画面の画面キャプチャーは、キー入力の証明として使用されます。

次のコマンドは、マシンのシリアル番号、使用制限、および IBM i 7.1 以降の区画のキーを表示します。

WRKLICINF

```
PRDID(5770SS1)
```

IBM i プログラム・オブジェクト QLZAVXFR は、2013 年 1 月より提供されているライセンス・キー入力を検証するツールです。IBM i 7.1 の場合、このプログラムは PTF SI52042 で提供され、IBM i 7.2 以降では基本オペレーティング・システムで提供されます。プログラムは、以下の方法で IBM i コマンド行から実行されます (入力パラメーターは不要です)。

CALL QSYS/QLZAVXFR

3. WRKLICINF または QLZAVXFR の画面をキャプチャーして、下記の E メール・アドレスのキーセンターへ送付します。

WWSWKEYS@dk.ibm.com

移転元マシンにライセンス数削減のキーが入力されたことを示す証明が受け取られ、確認されたら、キーセンターは移転先マシン用にライセンス数が追加されたキーを作成し、ESS Web サイトで参照可

能になります。

4.2 IBM i 6.1 の移転元マシンへのキーの入力と確認

1 PTF の適用

移転元マシンへ、新しく発行されたライセンス数削除のソフトウェア・ライセンス・キーを入力する前に、IBM i 6.1 用の PTF SI41387 をダウンロードする必要があります。

www.ibm.com へアクセスし、「サポート&ダウンロード」のページから PTF をダウンロードし、LODPTF コマンドで PTF をロードして、APYPTF コマンドで適用します。

2. 移転元マシンに、ライセンス数削減のライセンス・キーを入力します。

ESS Web サイト(<http://www.ibm.com/servers/eserver/ess>)にアクセスし、IBM ID を使用してサインオンし、左側のメニューから IBM i software keys にアクセスします。移転元マシンのマシンタイプ/シリアル番号を入力して、表示されたプロダクトのリストから 5761-SS1 5051 (IBM i - Per Processor) を見つけます。プロダクトを選択して、画面表示の下部から[View keysheet]を選択すると、ライセンスキーが表示されます。ライセンスキーの内容は、テキストとしてダウンロードや、メールに送信することも可能です。

"ADDLICKEY"コマンドを使用して 5761-SS1 5051 の新しいライセンス・キーを入力します。ADDLICKEY コマンドでのキー入力がかまくいかない場合は、以下の手順に従ってください。HMC 管理対象システムでは、HMC 上で手順を実行します。システムが HMC 管理ではない場合は、Virtual Partition Manager (VPM) または Integrated Virtualization Manager (IVM) を使用して手順を実行してください。

マシン上の各 IBM i 区画について HMC に表示される「希望する処理装置数」の欄 (VPM では"Number of partitioned processors") を、共用プロセッサを利用している区画については「希望する仮想プロセッサ数」の欄 (VPM では"Shared processor pool units") を修正し、すべての IBM i 区画でのプロセッサ数の合計が、今回移転元マシンに導入する使用権 (削減されたライセンス数の新しい IBM i 使用権) のプロセッサ数と一致するようにします。

- 注：マシンは、ソフトウェアのライセンス数より少ないキーを受け入れません。

プロセッサの構成が完了したら、IBM i コマンド行から次のコマンドを実行します。

```
ADDLICKEY
  PRDID(5761SS1)
  LICTRM(V6)
  FEATURE(5051) <注>
  SERIAL(*LOCAL)
  PRCGRP(*ANY)
  LICKEY(nnnnnn nnnnnn nnnnnn)
  USGLMT(nn)
  EXPDATE(*NONE)
  VNDDTA(*NONE)
```

注：プロセッサ: 5051、アプリケーション・サーバー・プロセッサ: 5053、ユーザー: 5052

3. 移転元マシンにライセンス・キーが入力されたこと確認します。

ライセンス・キーが正しく入力されたことを確認するためには、WRKLICINF を使用します。WRKLICINF は、現在の区画に入力したキーに関連する値を表示します。この情報は、**各** IBM i 区画

から収集する必要があります。

次の WRKLCINF コマンドは、新しいライセンス数削減のキーを入力した後に、移転元マシンの各 IBM i 区画で実行する必要があります。「ライセンス情報の処理」画面の画面キャプチャーは、キー入力の証明として使用されます。

次のコマンドは、マシンのシリアル番号、使用制限、および IBM i 6.1 区画のキーを表示します。

```
WRKLCINF  
PRDID(5761SS1)
```

IBM i プログラム・オブジェクト QLZAVXFR は、2013 年 1 月より提供されているライセンスキー入力を検証するツールです。IBM i 6.1 の場合、このプログラムは PTF SI52037 で提供されます。プログラムは、以下の方法で IBM i コマンド行から実行されます（入力パラメーターは不要です）。

```
CALL QSYS/QLZAVXFR
```

4. WRKLCINF または QLZAVXFR の画面をキャプチャーして、下記の E メール・アドレスのキーセンターへ送付します。

```
WWSWKEYS@dk.ibm.com
```

移転元マシンにライセンス数削減のキーが入力されたことを示す証明が受け取られ、確認されたら、キーセンターは移転先マシン用にライセンス数が追加されたキーを作成し、ESS Web サイトで参照可能になります。

4.3 IBM i 5.4 の移転元マシンへのキーの入力と確認

1 PTF の適用

移転元マシンへ、新しく発行されたライセンス数削除のソフトウェア・ライセンス・キーを入力する前に、IBM i 5.4 用の PTF SI44873 をダウンロードする必要があります。

www.ibm.com へアクセスし、「サポート&ダウンロード」のページから PTF をダウンロードし、LODPTF コマンドで PTF をロードして、APYPTF コマンドで適用します。

2. 移転元マシンに、ライセンス数削減のライセンス・キーを入力します。

ESS Web サイト (<http://www.ibm.com/servers/eserver/ess>) にアクセスし、IBM ID を使用してサインオンし、左側のメニューから IBM i software keys にアクセスします。移転元マシンのマシンタイプ/シリアル番号を入力して、表示された製品のリストから 5722-SS1 5051 (IBM i - Per Processor) を見つけます。製品を選択して、画面表示の下部から [View keysheet] を選択すると、ライセンスキーが表示されます。ライセンスキーの内容は、テキストとしてダウンロードや、メールに送信することも可能です。

"ADDLICKEY" コマンドを使用して 5722-SS1 5051 の新しいライセンス・キーを入力します。ADDLICKEY コマンドでのキー入力とうまくいかない場合は、以下の手順に従ってください。HMC 管理対象システムでは、HMC 上で手順を実行します。システムが HMC 管理ではない場合は、Virtual Partition Manager (VPM) または Integrated Virtualization Manager (IVM) を使用して手順を実行してください。

マシン上の各 IBM i 区画について HMC に表示される「希望する処理装置数」の欄 (VPM では "Number of partitioned processors") を、共用プロセッサを利用している区画については「希望する仮想プロセッサ数」の欄 (VPM では "Shared processor pool units") を修正し、すべての IBM i 区画でのプロセッサ数の合計が、今回移転元マシンに導入する使用権 (削減されたライセンス数の新しい

IBM i 使用権) のプロセッサ数と一致するようにします。

- 注：マシンは、ソフトウェアのライセンス数より少ないキーを受け入れません。

プロセッサの構成が完了したら、IBM i コマンド行から次のコマンドを実行します。

ADDLICKEY

```
PRDID(5722SS1)
LICTRM(V5)
FEATURE(5051) <注>
SERIAL(*LOCAL)
PRCGRP(*ANY)
LICKEY(nnnnnn nnnnnn nnnnnn)
USGLMT(mn)
EXPDATE(*NONE)
VNDDTA(*NONE)
```

注：プロセッサ：5051、アプリケーション・サーバー・プロセッサ：5053、ユーザー：5052

3. 移転元マシンにライセンス・キーが入力されたこと確認します。

ライセンス・キーが正しく入力されたことを確認するためには、WRKLICINF を使用します。WRKLICINF は、現在の区画に入力したキーに関連する値を表示します。この情報は、**各** IBM i 区画から収集する必要があります。

次の WRKLICINF コマンドは、新しいライセンス数削減のキーを入力した後に、移転元マシンの各 IBM i 区画で実行する必要があります。「ライセンス情報の処理」画面の画面キャプチャーは、キー入力の証明として使用されます。

次のコマンドは、マシンのシリアル番号、使用制限、および IBM i 5.4 区画のキーを表示します。

WRKLICINF

```
PRDID(5722SS1)
```

IBM i プログラム・オブジェクト QLZAVXFR は、2013 年 1 月より提供されているライセンスキー入力を検証するツールです。IBM i 5.4 の場合、このプログラムは PTF SI49043 で提供されます。QLZAVXFR は、検証する IBM i 導入コードを指定するために、1 つの入力パラメーターが必要になります。プロセッサとユーザーの両方にライセンス数削減のキーを入力した場合は、ツールを複数回実行する必要があります。たとえば、“5051”パラメーターを使用して 1 回、“5052”パラメーターを使用して 2 回目などです。プログラムは、以下の方法で IBM i コマンド行から実行されます。

```
CALL QSYS/QLZAVXFR PARM('5051') (プロセッサ・ライセンス用)
CALL QSYS/QLZAVXFR PARM('5052') (ユーザー・ライセンス用)
CALL QSYS/QLZAVXFR PARM('5053') (アプリケーション・サーバー・ライセンス用)
```

4. WRKLICINF または QLZAVXFR の画面をキャプチャーして、下記の E メール・アドレスのキーセンターへ送付します。

WWSWKEYS@dk.ibm.com

移転元マシンにライセンス数削減のキーが入力されたことを示す証明が受け取られ、確認されたら、キーセンターは移転先マシン用にライセンス数が追加されたキーを作成し、ESS Web サイトで参照可能になります。

4.4 WRKLCINF と QLZAVXFR のサンプル出力

以下は、IBM i 5.4 を実行しているシステムまたは区画での WRKLCINF コマンドおよび QLZAVXFR プログラムの出力例です。出力は、IBM i 6.1 以降の場合も同様です。「ライセンス情報の表示」画面のスクリーン・キャプチャー・イメージまたは QLZAVXFR プログラムからの出力をキーセンターへ送付して、ライセンス数削減のキーが移転元マシンに入力されたことを証明する必要があります。注意：スクリーンキャプチャは、jpg、png、bmp、gif、tif、.doc、.docx、または PDF (.pdf) ファイルのいずれかの形式でキーセンターに送信できます。ただし、「pdf として印刷」はしないでください。テキストファイルが作成され、画像は作成されません。

IBM i 5.4 区画での WRKLCINF 画面のサンプル

```

Work with License Information                ZZZZZZ1
                                           07/29/11 10:57:01

System serial number . . . . . : 1000000
Processor group . . . . . : P20

Type options, press Enter.
 1=Add license key  2=Change  5=Display detail  6=Print detail
 8=Work with license users ...

Opt  Product  License  Feature  Description
___  5722SS1  V5R4M0  5050     i5/OS
5_   5722SS1  V5      5051     i5/OS
___  5722SS1  V5R4M0  5103     Media and Storage Extensions
___  5722SS1  V5R4M0  5112     PSF for i5/OS 1-55 IPM Printer Support
___  5722SS1  V5R4M0  5113     PSF for i5/OS 1-100 IPM Printer Support
___  5722SS1  V5R4M0  5114     PSF for i5/OS Any Speed Printer Support
___  5722SS1  V5R4M0  5116     HA Switchable Resources
                                           More...

Parameters or command
===>
F3=Exit          F5=Refresh      F11=Display Usage Information  F12=Cancel
F17=Position to  F23=More options
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1980, 2007.
MÁ c MW 13/003

```

```

Display License Information                                ZZZZZZ1
                                                         07/29/11 11:01:22
Product ID . . . . . : 5722SS1
License term . . . . . : V5
Feature . . . . . : 5051
Description . . . . . : i5/OS

Compliance type . . . . . : *KEYED
Usage type . . . . . : *PROCESSOR

Usage limit . . . . . : 1
Last update . . . . . : 07/29/11 08:26:23

Threshold . . . . . : 1

Usage Count Information:
  All partitions . . . . . : 1.00
  Local partition . . . . . : 1.00

Peak Usage Information:
  Peak usage . . . . . : 1.00
  Last peak . . . . . : 07/29/11 04:45:32

Log violations . . . . . : *NO

Message queue/Library . . . . : *NONE

Keyed compliance information:
  Expiration date . . . . . : 09/09/11
  Grace period . . . . . : 0
  Date grace period expires : *NONE

F3=Exit  F5=Refresh  F12=Cancel

Bottom

```

IBM i 7.1 区画での QLZAVXFR 出力のサンプル

注：IBM i 6.1 以降を実行している場合は、プログラム QLZAVXFR を呼び出すときにパラメーターを指定する必要はありません。

```

Command Entry                                PART0001
Request level: 1

Previous commands and messages:
> CALL PGM(QSYS/QLZAVXFR)
>>>> Serial number : 10-1111A **** Model type : 9406 **** Model number :
520 **** Number partitions : 1 **** HMC flag: 1
>>>> Product ID : 5770SS1 **** License term : V7 **** Feature code : 5051
>>>> License key : B0B1B2B3B4B5B6B701 **** Key usage limit : 1 **** Last
update (YYMMDD) : 140610 **** Key expiration date (YYMMDD) : 140710
**** Global usage count : 1.00 **** Peak usage count : 2.00

Type command, press Enter.
==> _

F3=Exit  F4=Prompt  F9=Retrieve  F10=Include detailed messages
F11=Display full  F12=Cancel  F13=Information Assistant  F24=More keys

Bottom

```

5 追加情報

ソフトウェア製品の情報

"Planning - Customer Notices and Information" Web サイト

<https://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=nas8N1022016>

IBM i 使用権の移転オーダー構成の作成に関するガイド

"IBM i License topics" Web サイトの "IBM i Processor and User Transfer."セクションにあるドキュメント

"IBM i License Transfer Configuration and FAQ"

<https://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=nas8N1022087>

Entitled Systems Support (ESS) Web サイト

<http://www.ibm.com/servers/eserver/ess>

以下については、メニューから"Help"を参照してください。

- ESS Users Guide

- ESS Registration IBM Customers Guidelines

- ESS Registration IBM Internal Users Guidelines

これらのドキュメントは、ESS Web サイトの機能と使用方法を提供します。ESS Web サイトへのアクセスまたは ESS Web サイトの使用の詳細については、紹介画面の左側にあるメニューから"Help"または"Contacts"を選択してください。

June 2019 Printed in JAPAN

本書に記載の製品、プログラム、またはサービスが日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、プログラム、またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本文書中において IBM プログラム・プロダクトについて言及している場合、当該 IBM プログラム・プロダクトのみが使用可能であることを意味するものではありません。同等の機能を持つ他のプログラムをこれらの製品の代わりに使用することも可能です。

Copyright International Business Machines Corporation 2014. All rights reserved.

GI11-9824-19